

2021 年度ゼミ (3003 演習 2A/3004 演習 2B) 要覧

担当者名	孫占坤
演習テーマ	地域紛争・民族紛争を通して国際平和を考える
校外実習	1、実施しない 2、実施 (実施時期: 2021 年 8~9 月)
メール・アドレス	sun@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	火曜昼 (まず、メールをください。時間帯について柔軟に対応する)。
2022 年度に開講 しない可能性 (在外研究・特別研究)	ない。
授業概要	中東、アフリカをはじめ、世界では民族紛争、地域紛争に悩まされ、平和の兆しが見えてこないところがかかなりある。なぜ紛争が起き、続くのか、妥協や解決の道筋があるのか。これらのことを基本的な問題意識とし、近代主権国家・国民国家形成の歴史、理論を学びながら、具体的な紛争事例について分析・考察を行う。校外実習を意識して、春学期にパレスチナ問題、(1990~2010 年代の)旧ユーゴ紛争を取り上げる予定。秋学期にはアフリカ、アジア、旧ソ連地域など、もっと広く事例分析を行う予定。
学習目標	次の 4 点を学習目標とする。(1) 近現代主権国家・国民国家形成の歴史や理論を知ること。(2) パレスチナ・イスラエル、旧ユーゴなど、それぞれの地域の特殊性を理解すること。(3) 民族・地域紛争を解決するための国際的枠組 (法制度、国際組織など) についての理解を深めること。(4) 一人の「地球市民」として自分が地域紛争・民族紛争の解決に向けて何ができるかを見つけること。
授業計画	詳細は新学期に向けての「シラバス」を参照していただきたいが、大まかな年間計画として、次のように考えている。 春学期 (演習 2A): パレスチナ問題、旧ユーゴ紛争について文献や映像を通して歴史を知り、現状を把握すること。 秋学期 (演習 2B): ロヒンギヤ、ナゴルノ・カラバフ、ルワンダ、キプロスなど、アジア、アフリカ、旧ソ連圏に広げて、紛争事例の特殊性を分析し、紛争解決の一般的制度、仕組みについて考える。
予習	授業の内容を正確に理解するために、予習が不可欠。
復習	授業の内容をより良く把握してもらうため、復習課題を課す予定。
授業に関する 注意事項	① (当然なことだが) ゼミに欠席せず、必ず出席すること。 ② 出席するだけでなく、積極的に議論に参加すること。
教科書	(1) 臼杵 陽『イスラエル』岩波書店。 (2) 千田 善『ユーゴ紛争はなぜ長期化したか』勁草書房。 (3) 月村太郎『民族紛争』岩波書店。
参考書	(1) 山影 進 (編著)『主権国家体系の生成』ミネルヴァ書房。 (2) 千葉 真『連邦主義とコスモポリタニズム』風行社。

成績評価の 基準	授業の参加度：50%、レポート：50%。
関連 URL	
備考	この演習は 2021 年夏休みにイスラエル・パレスチナ、バルカン半島（ボスニア、セルビア）への校外実習を予定しているが、これはあくまでコロナウィルスが終息し、日本からの出入国が普通になり、行先や経由国も安全になり、明治学院大学から校外実習の許可が下りた場合のことである。眼下（2020 年 11 月）、校外実習の実施が困難だと教員は考えている。